

2021-2023 年度中期経営計画

2023 年度 実績報告書

学校法人共愛学園

企画調査室

目次

1. 実績報告書の概要.....	2
2. こども園 2023 年度実績報告書.....	4
3. 小学校 2023 年度実績報告書	6
4. 中学校 2023 年度実績報告書	8
5. 高等学校 2023 年度実績報告書.....	10
6. 短期大学部 2023 年度実績報告書	12
7. 大学 2023 年度実績報告書	14
8. 法人事務局 2023 年度実績報告書	16

学校法人共愛学園 2023 年度中期経営計画実績報告書

学校法人共愛学園
企画調査室

1. 実績報告書の概要

1-1. はじめに

2020 年 4 月私学法改正により、大学を設置する学校法人は中期計画（以下、「中計」という。）の策定が義務化されている。本学園は、いち早く 2009 年度より中計を取り入れ、①教育研究・教育・保育計画、②学生・生徒・園児・児童募集計画、③学納金計画、④施設・設備・修繕計画、⑤人事計画、⑥その他の 6 項目で本学園が進むべき道を示してきた。

本学園の中計は PDCA サイクルに基づき、2018-2020 年度中計では形式自体を見直し、より明確な目標、より具体的な計画が策定できるように改善したが各項目の目標数を予め定めていなかったため行動目標数が多くなり、力の分散により未達成の目標も多く生じていた。2021 年度-2023 年度中計においては、前期中計の課題を踏まえ、①「教育内容」、②「教育組織」、③「教育環境」、④「教育運営」の 4 つの領域に絞り、それぞれの領域で事業の達成目標（KGI）を 2 つまでの設定とした。

新たに改善された 2021-2023 年度中計は 2023 年度が最終年にあたり、各部門における 1 年間の実績および 3 年間の最終評価を報告する。

1-2. 実績報告書の評価基準について

実績報告書は公開を前提としているため、事業の達成目標（KGI）の評価を重視する。ただし KGI は 3 年間の積み上げ式、すなわち、3 年間で 100%の達成を目指すため、各年度の実績については各年度の 1 年間で 100%の達成を目指す成果指標（KPI）で評価する。また、評価方法は各部門よりエビデンスに基づいて記入された実績報告シートを企画調査室が検証し、以下の評価基準にて 6 段階で示すことにする。49.9%以下は本学園の達成基準を下回ったと評価する。また、未着手または目標の変更の場合は、F 評価とする。

また、評価は今後の各部門における業務運営の改善に資するよう、簡潔な表現で示すとともに、必要に応じて理由等を付すことを基本とする。また、特筆すべき点や今後の取組に係る課題がある場合には、簡潔な文章による意見を付すことにする。

1-2-1. 6段階評価の評価基準

評価	KPI 達成率	報告書での表現方法
S	100.0%以上	目標を達成した。
A	80.0～99.9%	ほぼ目標を達成した。
B	60.0～79.9%	概ね目標を達成した。
C	50.0～59.9%	半分程度は目標を達成した。
D	49.9%以下	着手したが、目標達成基準を下回った。
F	—	未着手または目標の変更

1-3. 成果指標（KPI）の評価方法について

各部門が設定した事業達成目標（KGI）の評価は、3カ年計画の各成果指標（KPI）の達成率に基づき評価する。成果指標の達成率は、各KGIに設定された行動計画の達成率に基づき評価している。すなわち、事業達成目標を達成させるために細分化された各行動計画の達成率が、全体評価の基準となる。

各行動計画には成果指標（KPI）が設定されており、各部門の担当者は、行動計画の年度実績チェックシートに成果指標の達成率とエビデンスを記入し、本学園企画調査室に提出する。企画調査室は、各部門の担当者が記入した自己評価の妥当性を検証し、報告書を作成する。作成した報告書は、内部監査室に提出され、企画調査室の評価結果を検証した上で、内部監査委員会に諮り、最終的な評価を確定させている。

1-4. 実績報告書で使用する用語説明

中計はこれまで学校法人では馴染の無かった経営的な専門用語が使用されているため、まずは本中計で定義されている用語を確認することにより、さらに本報告書の理解を深められるよう以下に説明を付す。

① ビジョン

ビジョンは、各部門のミッションを踏まえ、方向性・目指すべき姿を簡潔に示したメッセージである。3年後にどんな学校になってほしいか、どんなことを達成したいかなどの将来像が示されている。

② 領域

領域は、各部門が運営・業務を行う上でのトップテーマであり、活動領域を示している。

③ 事業達成目標（KGI）

KGI（Key Goal Indicator）は、事業を達成させるための具体的な最終目標である。KGIは重要目標達成指標であり、各部門が達成すべき目標を定量的、数値的に表している。

④ 成果指標（KPI）

KPI（Key Performance Indicator）は、行動計画の達成度を評価するための中間目標であり、本学園ではKPIの評価が事業達成目標（KGI）の評価につながっている。

2. こども園 2023 年度実績報告書

2-1. こども園実績報告

2021-2023 年度こども園の中計ビジョンは、「互いに愛し合い、主体的な保育を確立する」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2023 年度中計における KPI の実績は、教育内容、教育組織の領域は概ね目標を達成したが、教育環境、教育運営の各領域は未達成であった。

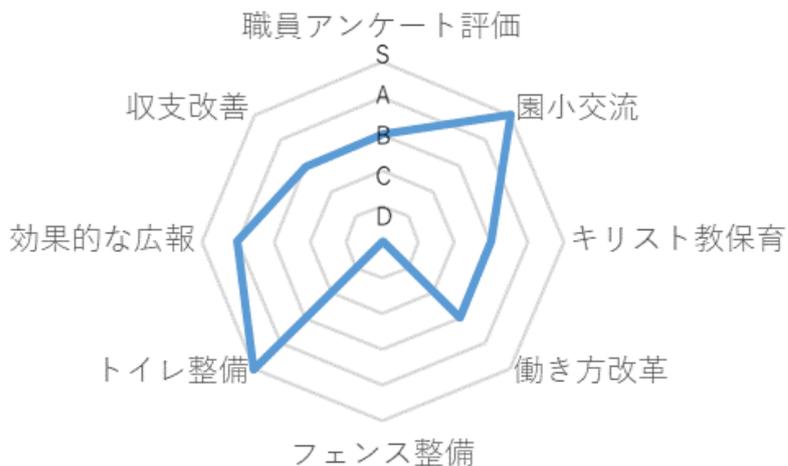
2023 年度は園小接続のための交流事業として、花の日、収穫感謝、どんぐりパーティーでの交流、授業見学、学習発表会見学や、クリスマス祝会での小学校 4 年生による讃美歌の披露、授業体験、また園小連携会議による意見交換を実施し、園小連携を図ったことは評価できる。今後も交流する機会を増やし、継続して連携を図っていくことや、職員による互いの授業参観保育参観の実施に取り組むことが求められる。また定員確保を目指して、未就園児家庭に向けての園内見学を実施できたことは効果的であった。しかし、定員 260 名の確保には至らなかったことから、今後も継続した取り組みが求められることを付記しておく。

評価の低かった KPI を見ると、未満児フェンス設置計画が挙げられる。0 歳児受け入れの為、当初予算に計上していなかった「きぼう棟」の改修を行なったことにより、フェンスの設置は行なえなかった。しかし、簡易の柵は設置してあるものの、より安全な環境を確保するために早期のフェンス設置対応が望まれる。

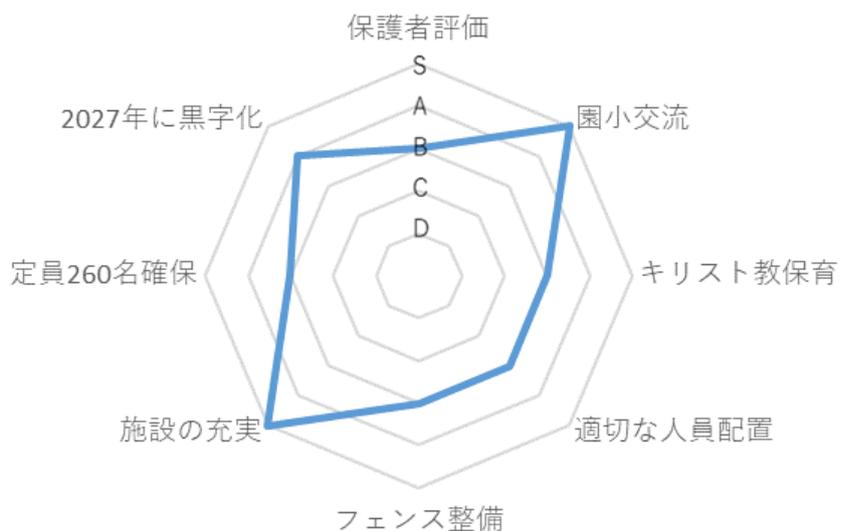
一方の、2021-2023 年度の 3 年間における KGI の最終実績は、特に園小交流と施設の充実に 100% 達成し、他の KGI も概ね達成していることは評価できる結果である。

こども園はゼロ歳児より園児を受け入れ、また、地域性も高いため、総合学園である本学園の第一印象を決める重要な役割を担う部門である。言い換えれば、これまで本学園と関係の無かった人たちが、はじめて共愛学園と関係が持てる重要な部門である。すなわち、良い印象を与えられれば、多くの園では不可能である系列の小学校につながりこともでき、将来的には中高大につながられる要因にもなる。こども園と学童クラブは他部門と比較すると地域性が強く、また、全員が強く志望して入園した母集団ではないため、良い印象を与えていくことは通常よりも一段と難しくなる。したがって、次期中期計画でも戦略的な計画を策定し、職員が体系的に行動できる体制を継続して整えることが求められる。

こども園KPI評価



こども園KGI評価



3. 小学校 2023 年度実績報告書

3-1. 小学校実績報告

2021-2023 年度小学校の中計ビジョンは、「共愛学園小学校の教育が知れ渡り、誰もが入学したくなる小学校を目指す」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

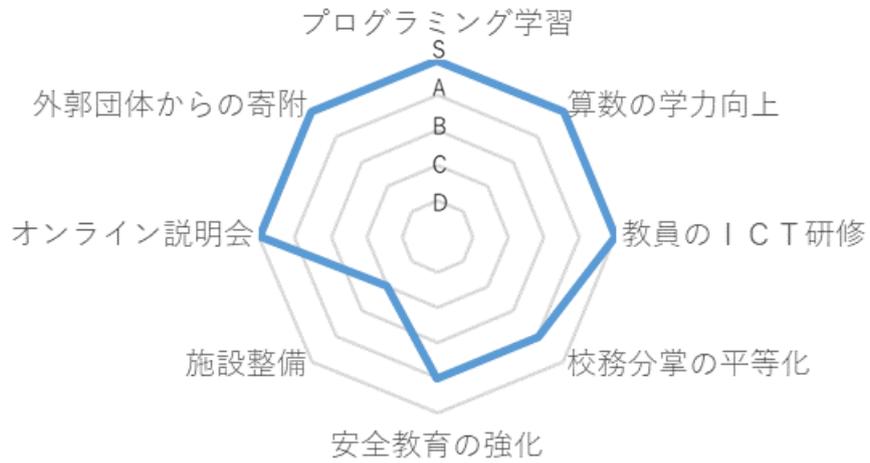
2023 年度中計における KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育運営の各領域は順調に達成したが、教育環境の領域は未達成であった。

2023 年度は、3 期生が卒業し共愛中学へ進学する接続 3 年目であった。中学校の推薦基準を満たすため、3 年生以上の算数科で单元ごとにグループ編成を替えながら 2C3T の少人数指導を取り入れたことや、2 年生から 6 年生まで教職経験者によるボランティアティーチャーによる個別指導も取り入れ、児童一人ひとりの学力を伸ばすように努めたことは評価できる。本取り組みにより、算数の学力テストで到達状況別人数において C は全体の 2.5% に抑えることができた。これは全国平均よりかなり高い成績であり、次年度も継続することが求められる。また ICT 部会を中心に 3 年生以上のプログラミング学習のカリキュラムを発達段階に合わせて作成し、実施したことも評価できる。グループでトライ & エラーを繰り返しながら論理的思考を繰り返し、目標を達成するカリキュラムは主体的に学ぶ力を育むために大変有効である。さらに各学年とも 1 クラスを ICT 主任が、もう 1 クラスを学年の ICT 担当が T1 で指導して、各学年の職員の指導力アップにも資することができた。

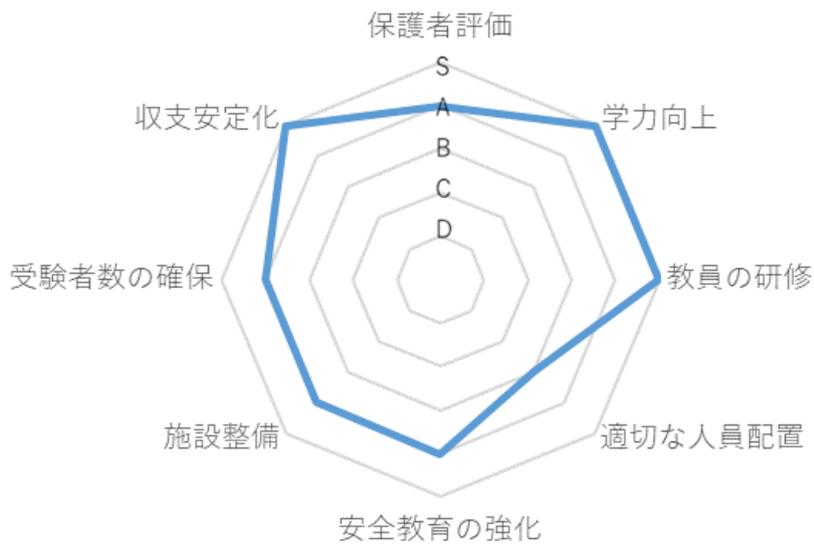
唯一評価の低かった KPI を見ると、施設設備の整備において、児童の放課後学習スペース等の創設は、アフタースクールとの関係および管理面などの課題があり実現できなかった。また財政面においても厳しく、高額費用が見込まれる事業でもあり、実施できていない。しかし、児童の放課後学習スペースの設置は児童の授業外学習習慣の醸成や学力向上に大変効果的であると考えられるため、今後の早期設置が望ましい。

一方の、2021-2023 年度の 3 年間における KGI の最終実績は、特に学力向上と教員の研修、収支安定化は 100% 取り組み、他の KGI も概ね達成していることは評価できる結果である。次期中期計画でも継続した取り組みが望ましい。

小学校 K P I 評価



小学校 K G I 評価



4. 中学校 2023 年度実績報告書

4-1. 中学校実績報告

2021-2023 年度中学校の中計ビジョンは、「共愛小学校の完成年度を迎え内部生と外部生の融合による新たな共愛中学校へと発展させる」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

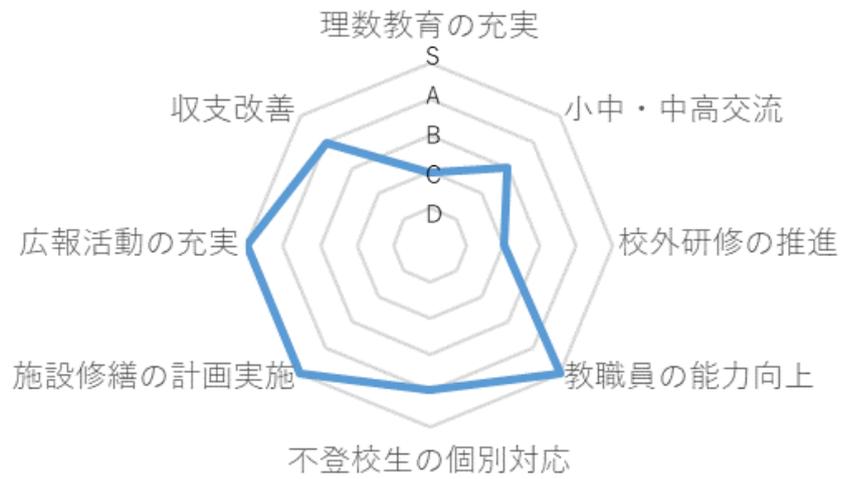
2023 年度中計の KPI の実績は、教育環境、教育運営の領域はほぼ順調に達成したが、教育内容、教育組織の領域は未達成の KPI があった。

2023 年度は共愛学園小学校からの 3 期生を接続させる年であったが、共愛小から内部進学した生徒は 40 名であった。共愛学園小学校、外部生への説明会などを積極的に実施し、5 年生対象見学会などを通じて PR し広く募集活動を実施したことは評価できる。しかし、他の一貫校や共愛学園小学校の影響等から外部受験生が減少したため、入試日程を急遽追加して対応したように、今後も年 3 回以上の入試と積極的な広報活動に力を入れることが求められる。また、校舎施設・設備の「安全性確保」は、教育環境を支える重点課題である。老朽化への対策として 2021 年度実施した「劣化診断及び長寿命化計画」に基づき体育館空調、PC 入替、外壁補修等の工事が完了したことは評価できる。生徒数の急減期に入り財政的に計画通り行うのが難しくなる可能性がある中で、可能な限り対象となる補助金を活用できるよう努める必要がある。

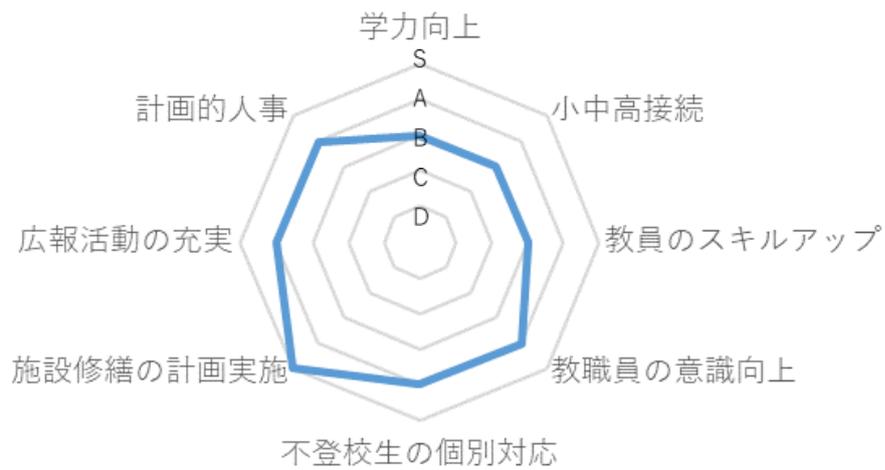
また、評価が低かった事業としては、理数教育の充実が挙げられる。理数強化のため導入した「体系数学」だが、数学を苦手としている生徒が多数占めているのが現状である。そのため中学 2 年生は数学の習熟度別授業を実施している。個人で見ると成果が上がっている生徒もあり、この点を線に広げていくことがこれからの課題である。次年度は「体系数学」の取り組みが 3 学年揃い、取り組みの真価が問われる年となることから、改善を加えながら継続して取り組んでいくことが求められる。

一方の、2021-2023 年度の 3 年間における KGI の最終実績は、特に施設修繕の計画実施を 100%達成し、それ以外の KGI も概ね達成していることは評価できる結果である。次期中期計画でも継続した取り組みが望ましい。

中学校 K P I 評価



中学校 K G I 評価



5. 高等学校 2023 年度実績報告書

5-1. 高等学校実績報告

2021-2023 年度高等学校（以下、「高校」という。）の中計ビジョンは、「普通科・英語科という課程の枠を超えた新たな教育の質の転換を推し進め、高い進路達成を実現する」であり、ビジョンに基づき4つの領域、8項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には3カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

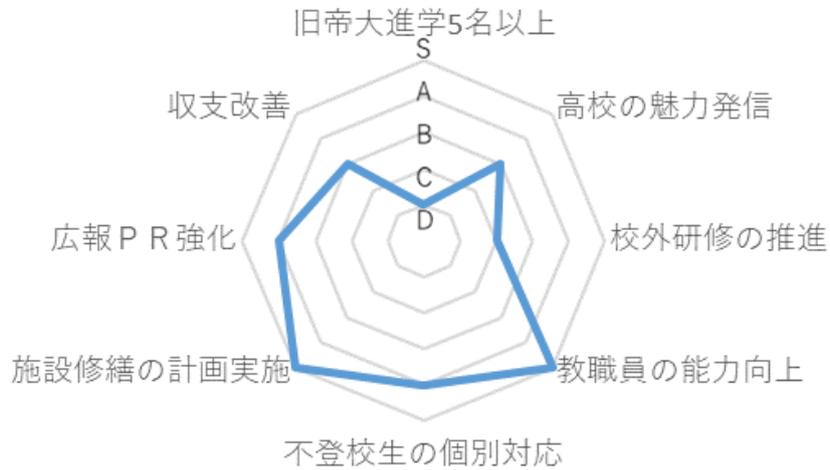
2023 年度中計の KPI の実績は、教育環境、教育運営の各領域は概ね順調に推移しているが、教育内容、教育組織の領域は未達成の KPI があった。

2023 年度は、受験生や入学者が多い中学校を中心に訪問したり、県内外の大手塾、個人塾の訪問を年3回実施したことや、オープンキャンパスの工夫を加えたり、塾対象の説明会や各中学校の説明会にも積極的に参加したことにより、受験生の数が多少ではあるが増加したことは評価できる。しかし、成果として入学者数で表れることが重要であり、理系のイメージを強化するために進学実績をアップしたり、少子化の時代を勝ち抜くために他校の動きを参考に入試改革を早急に行うことが必要である。また、校舎施設・設備の「安全性確保」は、教育環境を支える重点課題である。老朽化への対策として2021年度実施した「劣化診断及び長寿命化計画」に基づき空調入替、LED 取替、体育館空調、PC 入替、外壁補修等の工事が完了したことは評価できる。生徒数の急減期に入り財政的に計画通り行うのが難しくなる可能性がある中で、可能な限り対象となる補助金を活用できるよう努める必要がある。

KPI の達成率が低かった事業として、旧帝大への進学5名以上が挙げられる。難関国公立大へ挑戦した生徒は、残念ながら合格には至らなかった。私大専願者の共通テスト出願者減少が見られ、手堅い出願で、年内入試で進路を決める生徒が多数を占めている。各コースとも最後まで諦めずに挑戦する層を増やすことが求められる。しかしながら、慶應義塾大・ICU・上智大学・MARCH・同志社大学などの難関私大へ合格者があったことや、国公立大では、群馬大、県女大・高経大・前工大への合格が見られ、一定の成果が得られたことを付記しておく。

一方の、2021-2023 年度の3年間における KGI の最終実績は、特に施設修繕の計画実施は100%であり、他の KGI も概ね達成していることは評価できる結果である。唯一達成率が低かった KGI は、難関大進学40名以上であるが、進学実績を上げるには次期中期計画でも継続した取り組みが求められる。

高等学校 K P I 評価



高等学校 K G I 評価



6. 短期大学部 2023 年度実績報告書

6-1. 短期大学部実績報告

2021-2023 年度の短期大学部中計ビジョンは、「群馬県内で最も選ばれる短大となる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、6 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

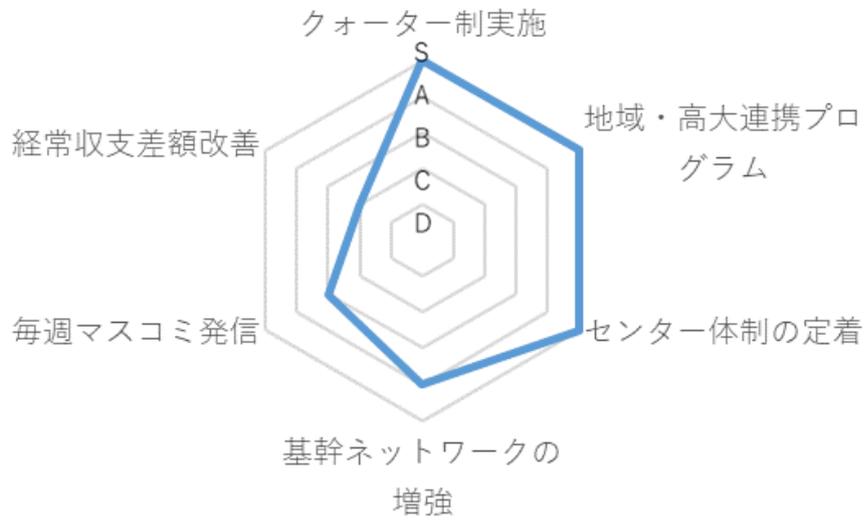
2023 年中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境の領域で KPI の目標を達成したが、教育運営の領域では、未達成の KPI があった。また、教育組織、教育環境の各 KGI は 1 項目であり、他部門と比較して項目が少ないため、今後、短期大学部では中計の新たな KGI を追加設定できるよう検討し、教育組織と教育環境の各領域強化を図ることが望ましい。

2023 年度は、群馬県内初の実施となるクォーター制への移行が滞りなくでき、SD-challenge 履修者全員が単位修得することができたことは評価できる。学長室会議、教授会で改善策が検討され、順次実施されている。一方で、SD-challenge と卒業研究の連携や SD-challenge 担当者間での情報共有が課題となっている。クォーター制では、教科書の購入方法、補講日の確保、定期試験の時間割の改善などがあげられている。

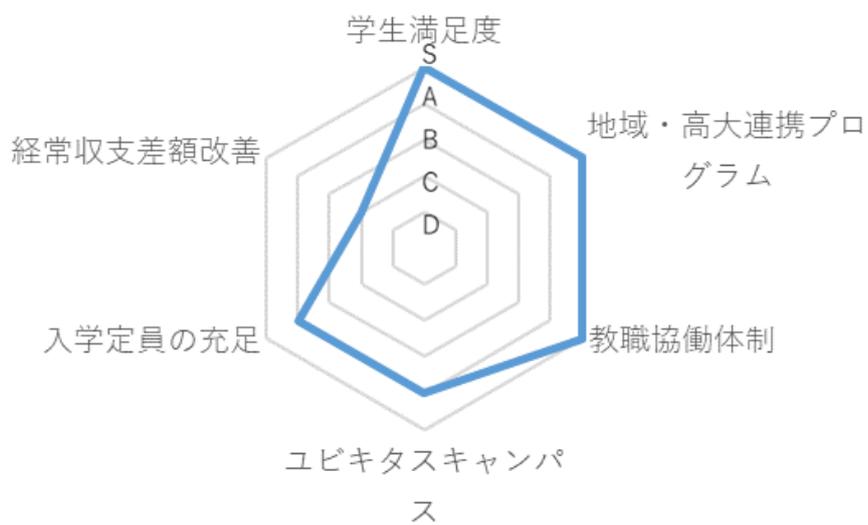
取組みを進展できなかった KGI として、経常収支差額の改善がある。学費の値上げや私学改革総合支援事業の補助金獲得、2023 年度入学生が前年度より 4 名増加して収入増とすることができたものの、経常収支差額の改善には至らなかった。収支の改善は収入の確保 (入学者・収容定員の確保) が不可欠であるため、入学定員確保を引き続き進めるとともに、私学改革総合支援事業や外部資金の獲得での収入源の確保や支出の見直しを徹底することが求められる。財政の健全化のために継続して取り組むべき事業であることを付記しておく。

一方の、2021-2023 年度の 3 年間における KGI の最終実績は、特に学生満足度、地域・高大連携プログラム、新しい教職協働体制の達成率は 100% であり、他の KGI も概ね達成していることは評価できる結果である。唯一達成率が低かった KGI は経常収支差額改善であるが、健全な経常収支とするには、次期中期計画でも継続した取り組みが求められる。

短期大学部K P I 評価



短期大学部K G I 評価



7. 大学 2023 年度実績報告書

7-1. 大学実績報告

2021-2023 年度の大学中計ビジョンは、「最先端の学修と人材育成を確立させるカリキュラムを柱に、教育の質保証システム先進大学となる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、16 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2023 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境、教育運営の各領域の中で、達成できた KIP と達成率の低い KPI があった。大学は、他部門の 2 倍である 16 項目の KGI が設定されているため、力の分散が生じ、教職員に計画を浸透させることが難しく、細かさゆえの柔軟性や共有性の課題も見え隠れしている。なお、進捗シートの記入は、行動計画ごとに管理者と担当者が配置され、学長をリーダーとして内部統制が機能していることが伺える。

2023 年度は、KCG の改善については、卒業時にリフレクションを実施した学生の割合は 100% となり、卒業時リフレクション面談を評価している割合が 6 割を超え、昨年よりも増加していることは評価できる。また、履修アドバイスの改善では、2023 年度は各学期の履修登録終了後、全学生に履修相談窓口利用アンケートを実施した。学生センター窓口を利用した学生の回答より、5 段階評価のうち「前期 4.74」「後期 4.55」という高い満足度となり、KGI で定められた数値「4.0 以上」を達成したことも評価できる。オープンキャンパス参加者の増加については、2023 年度は栃木、長野、新潟からは合計 47 名が参加した。2022 年度実施オープンキャンパスの 3 県参加者が 25 名であったため、大幅な増加である。(参加人数は前年度 3 月～当該年度 8 月までの参加者を集計。なお、入試説明会は含まない) しかし一方で、県外では進学ガイダンスにおける本学ブースへの来場者は少なく、知名度も低い。今後数年かけて継続的にイベントの参加や高校の教員との関係構築を行い、ターゲット地区のより詳細な分析や広報戦略の設定に努めることが求められる。

KPI の評価が低かった事業として、教学マネジメント運用評価や、教科入試の強化が挙げられる。教学マネジメント本部は、3 部門が密接に関連しており、3 年目は新学部設置を見据えたり、新カリキュラムを運用したり流動的な要素を包含しながらの運用となり、一定の成果を教授会に報告するには至らなかった。また教科入試 (スカラシップ試験、一般選抜、共通テスト利用型選抜) について、スカラシップ試験を除き一般選抜は 1.32 倍、共通テスト利用型は 1.20 倍であり、昨年度よりも上昇したが 2 倍には届かなかった。推薦である程度の人数を確保しつつ、進学校を中心に教科入試を受けてもらえるように広報していく必要がある。

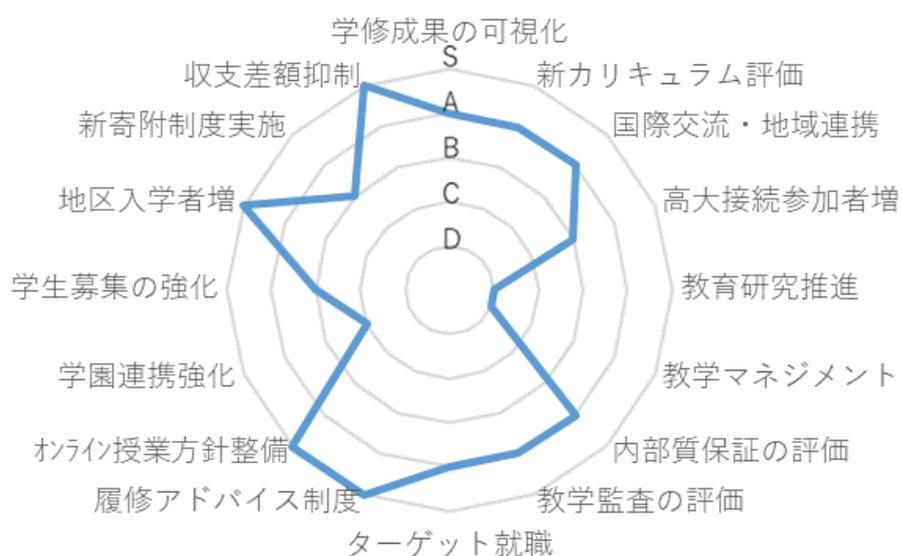
一方の、2021-2023 年度の 3 年間における KGI の最終実績は、履修アドバイス制度、オ

オンライン授業方針整備、地区入学者増、収支差額抑制の達成率は100%であり、それら以外にも概ね達成している KGI が多いことは評価できる結果である。達成率が低かった KGI は教育研究推進、教学マネジメント、学園連携強化であるが、今後も継続した取り組みが求められる。

大学 K P I 評価



大学 K G I 評価



8. 法人事務局 2023 年度実績報告書

8-1. 法人事務局実績報告

2021-2023 年度の法人事務局中計ビジョンは、「今、共愛（共生）の使命（Mission）に生きる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2023 年度中計の KPI の実績は、教育組織、教育環境の領域は概ね順調に目標を達成したが、教育内容、教育運営の領域は達成率の低い事業もあった。

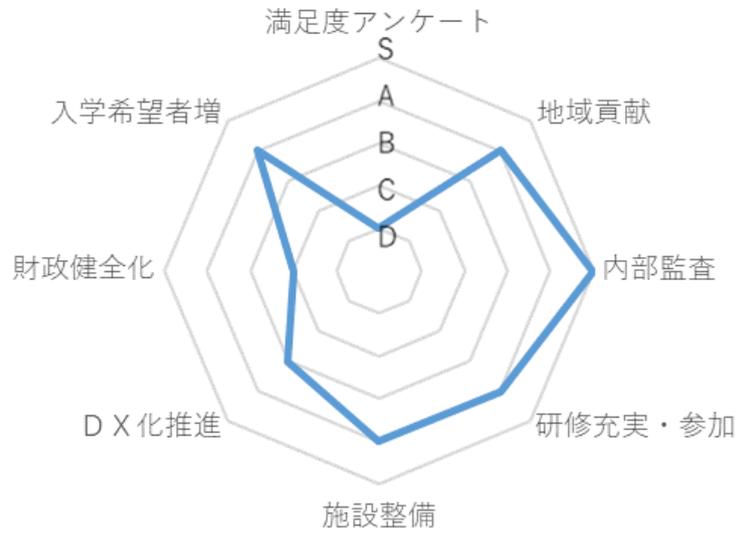
2023 年度は、前年度の内部監査を踏まえ、学園内の内部監査を強化したことは評価できる。具体的には学園監事との連携を強化し、毎月連絡会を実施した。事務部門長（部課室長）における業務監査の実施、部門長（学長・校長・園長）の管理運営に関する業務監査の実施、前述業務監査の報告書を基に、法人監事による教学監査調書の作成、テーマ監査 募集活動（小・中高）に関する所属長（事務部長）とのヒアリングの実施などの取組みを行なった。今後も本学園独自の内部監査に向けた取組みを実施し、組織と運営の質を向上させることが求められる。

また、各部門の施設設備の充実では、補助金の有効利用により、老朽化してきた中高校舎外壁の全面補修や空調整備などを行なったことは評価できる。今後は、エレベーターの入れ替えや、ベルタワーの外壁改修など、安全性や外観美化をさらに高めることが望まれる。

KPI のやや低い事業として財政の健全化が挙げられる。経常収支差額において短期大学の黒字化を図るため、短期大学部では定員確保に向けた募集戦略の継続が必要である。中学校は、小中接続の取組みを強化するとともに、外部受験生の増加が喫緊の課題となっている。小学校では長期的には減価償却額の推移による黒字化は見込めるものの、早期の黒字化施策として、定員の確保は勿論の事、支出削減に努めるとともに、学費値上げを検討する必要がある。また、こども園では 0 歳児の受け入れによる財政改善策を図ったが、定員確保と財政安定化に向けた施策が引き続き求められる。また、保護者対象の満足度調査アンケートは、こども園と小学校を除いて実施していない。今後は教育の質向上のため、他部門でも実施を検討することが望ましい。

一方の、2021-2023 年度の 3 年間における KGI の最終実績は、特に戦略・創造型事務局への転換は 100% 取組み、それ以外の KGI も概ね達成していることは評価できる結果である。次期中期計画でも継続した取組みが望ましい。

法人事務局 K P I 評価



法人事務局 K G I 評価

